



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月5日

上場取引所 東 大

上場会社名 株式会社エフピコ

コード番号 7947 URL <http://www.fpco.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 守正

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理財務本部本部長 (氏名) 池上 功

TEL 084-953-1145

四半期報告書提出予定日 平成25年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	123,664	2.6	13,040	3.5	13,255	5.0	7,884	14.6
24年3月期第3四半期	120,476	12.3	12,595	5.4	12,628	6.1	6,878	△3.8

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 7,793百万円 (14.2%) 24年3月期第3四半期 6,827百万円 (△2.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	380.92	—
24年3月期第3四半期	332.33	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第3四半期	176,952	75,411	42.6	3,642.57
24年3月期	165,964	70,202	42.3	3,390.22

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 75,393百万円 24年3月期 70,170百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	58.00	—	60.00	118.00
25年3月期	—	64.00	—		
25年3月期(予想)				60.00	124.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	165,000	6.0	15,890	7.0	16,100	7.7	9,420	16.4	455.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より補助金収入の会計処理の変更を行なっております。

詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報」(注記事項)に関する事項「(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期3Q	22,142,106 株	24年3月期	22,142,106 株
② 期末自己株式数	25年3月期3Q	1,444,164 株	24年3月期	1,444,024 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期3Q	20,698,010 株	24年3月期3Q	20,698,207 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、「添付資料」3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円高や電力供給不足の不安に加え、消費税増税や電気料金値上げなどの懸念事項もあり、景気の先行きについては依然不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間における販売面では、新デザイン容器やマルチFP（MF P：-40℃～+110℃の耐寒・耐熱性を兼ね備え、耐油・耐酸性、断熱性に優れた発泡ポリスチレン容器）に代表される新機能容器など、『エフピコフェア2012』以降に上市した新製品（約2,000アイテム）の拡販が引き続き好調に推移しております。

また、マルチFPの製造工程で発生する端材を活用したマルチソリッド（MSD：マルチFPの特性を維持しつつシャープな形状の実現を可能とした非発泡ポリスチレン容器）を開発し平成24年11月に上市いたしました。平成24年5月に上市したPETリサイクル透明容器「エフピコ エコAPET」（登録商標）シリーズへの切替も順調に進んでおり、透明度をOPS並みとしたPP耐熱透明容器も販売量を大きく伸ばしております。

さらに、平成24年11月よりPET2軸延伸製品（耐熱性向上と強度アップを実現したPET透明容器では世界初となる2軸延伸シートからの成型品）の販売を開始いたしました。このPET2軸延伸製品につきましては、シート押出し機の納入遅れ及びその能力の問題等により、製品上市が当初計画より大幅に遅れたため、コストの発生が先行していた状況となっております。現在では、能力の問題等の改善の目処が立ち、さらに先行して発生したコストの負担につきましても、機械メーカーとの間で協議しております。

一方で、汎用製品を中心に不採算取引の見直しを行ってきたこと等により、製品販売数量は前年同期比102.4%となりました。なお、製品売上高は、依然として鶏卵パックや汎用製品など一部の製品において価格競争が続いているものの、新製品の販売数量が伸びたことに加え、前第2四半期連結会計期間に実施した製品値上げの影響もあり、前年同期比102.4%となりました。

商品売上高は、平成23年5月より稼働を始めたアイ・ロジック中部ピッキングセンターより、大手ユーザーへ食品用包装資材の納入を開始する等商品取扱量の拡大に努めたことにより、前年同期比103.2%となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,236億64百万円、前年同期比で31億87百万円の増収（前年同期比102.6%）となりました。

また、来る平成25年3月5・6・7日の3日間、『エフピコフェア』を昨年に引続き東京・有楽町の「東京国際フォーラム」にて開催いたします。『知恵と工夫百選』をテーマに、「明日の売り場」の即戦力アイデアを集め、ご来場いただく皆様のお役に立てる有益なフェアになりますよう準備を進めております。

利益面におきましては、原材料価格が次第に高騰を続けたため、原材料コストが前年同期に比べ約6億円増加した他、PET2軸延伸設備など積極的に進めている設備投資等による経費の増加が約15億73百万円となりました。

他方、新製品の販売が好調に推移したことや、グループ全体でのコスト改善及び前第2四半期連結会計期間に実施した製品値上げを行った効果等による利益改善額は総額で約28億円となり、当第3四半期連結累計期間の経常利益は132億55百万円、前年同期比で6億27百万円の増益（前年同期比105.0%）となりました。また、経常利益が増加したことと、前年同期には東日本大震災に関わる特別損失2億41百万円を計上していたこと等により、当第3四半期連結累計期間の四半期純利益は78億84百万円（前年同期比114.6%）となりました。

設備面では、平成24年7月より中部リサイクル工場にてPETメカニカルリサイクルプラント2号機が稼働し、初期稼働時はPETリサイクル材料の調達不足により稼働率が低い状況にありましたが、現在では1号機と合わせ年間2万トン規模となるリサイクルPETフレークの生産を開始しております。また、平成24年7月には関東八千代工場が竣工となり、低層階はPSP製品及びPET2軸延伸製品の生産工場、上層階は物流設備として稼働しております。

また物流設備の拡充のため、平成23年5月のアイ・ロジック中部ピッキングセンター稼働、平成24年4月の関東八千代工場内のアイ・ロジック関東ピッキングセンター稼働に続き、九州地区（佐賀県神埼市）及び関西地区（神戸市）において既存拠点の近隣に新たな用地を取得し、平成25年7月及び10月の稼働に向けてピッキングセンターを中心とした物流設備の建設に着手いたしました。

平成24年12月末には、例年以上に受注ピークが集中し、緊急手配等の対応を行いましたが、関東の一部で配達遅延が起きるなど、お客様にご心配をおかけしました。今後はこれらの設備投資により11拠点（約4万坪：平成25年度計画）のピッキングセンターと、6拠点（約13万坪：平成25年度計画）の物流センターにより構成される全国をフルカバーする物流ネットワークを構築し、いかなる状況にも対応できるように努めてまいります。

社会的責任としての障がい者雇用の促進につきましては、障がい者雇用率は16.3%（平成24年3月末現在）となっており、平成24年6月の仙台市に続き、平成24年11月には福井市におきましても、障がい者就労施設におけるペットボトル減容ライン新設を支援し、全国21ヶ所（成型工場：3ヶ所、組立工場：9ヶ所、選別工場：9ヶ所）の事業所と障がい者就労施設2ヶ所で雇用の機会を提供しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、1,769億52百万円となり、前連結会計年度末に比べて109億87百万円増加いたしました。

これは主に受取手形及び売掛金59億54百万円、商品及び製品9億92百万円並びに有形固定資産合計49億37百万円の増加、現金及び預金3億6百万円の減少によるものであります。

負債合計は、1,015億40百万円となり、前連結会計年度末に比べて57億77百万円増加いたしました。

これは主に買掛金20億11百万円、短期借入金及び長期借入金合計70億30百万円並びにその他固定負債10億72百万円の増加、未払法人税等22億16百万円並びにその他流動負債13億6百万円の減少によるものであります。

また、純資産合計は、754億11百万円となり、前連結会計年度末に比べて52億9百万円増加いたしました。

これは主に利益剰余金53億15百万円の増加によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末より3億6百万円減少し、136億3百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により獲得した資金は、81億36百万円（前年同期は93億77百万円の資金獲得）となりました。

これは主に税金等調整前四半期純利益 130億79百万円、減価償却費72億1百万円及び仕入債務の増加20億48百万円などによる資金の増加、売上債権の増加 60億31百万円と、たな卸資産の増加 11億96百万円及び法人税等の支払71億23百万円による資金の減少によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は、111億41百万円（前年同期は74億21百万円の支出）となりました。

これは主に、工場の生産設備等固定資産の取得による支出109億33百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により獲得した資金は、26億99百万円（前年同期は10億8百万円の支出）となりました。

これは主に借入金等の純増加額 71億20百万円と、配当金の支払25億32百万円及びリース債務の返済による支出18億81百万円などによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後の見通しにつきましては、原材料価格動向に加えて、景気は足踏み状態が続き、依然として先行き不透明な状況が予想されます。平成25年3月期の連結業績につきましては、平成24年11月6日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

（補助金収入の会計処理の変更）

一部の子会社で実施するリサイクル事業等に係る障がい者雇用に対する助成金は、従来、営業外収益の補助金収入として計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より売上原価から控除する処理に変更しております。この変更は、PETリサイクル事業への本格参入を決定したことを契機とし、平成25年3月期中の中部PETリサイクル工場等の本格稼働により障がい者雇用が増加、また、助成金も増加する見込みであり、この傾向は今後も続くと考えられることから、当該事業の採算管理の考え方を財務諸表により適切に反映させるために行ったものであります。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前第3四半期連結累計期間については遡及適用後の四半期連結財務諸表となっております。この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第3四半期連結累計期間の売上原価が466百万円減少し、営業利益が同額増加しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益には影響ありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,909	13,603
受取手形及び売掛金	37,328	43,282
商品及び製品	14,662	15,655
仕掛品	131	120
原材料及び貯蔵品	2,184	2,361
その他	4,162	3,791
貸倒引当金	△68	△47
流動資産合計	72,310	78,766
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	34,114	38,345
機械装置及び運搬具（純額）	8,473	9,150
土地	26,767	27,838
リース資産（純額）	8,088	9,389
その他（純額）	8,355	6,010
有形固定資産合計	85,798	90,735
無形固定資産		
のれん	1,671	1,263
その他	965	907
無形固定資産合計	2,637	2,171
投資その他の資産	5,218	5,279
固定資産合計	93,654	98,185
資産合計	165,964	176,952
負債の部		
流動負債		
買掛金	21,565	23,577
短期借入金	16,705	17,862
コマーシャル・ペーパー	15,000	15,000
未払法人税等	4,032	1,815
賞与引当金	1,735	800
役員賞与引当金	101	70
その他	11,410	10,103
流動負債合計	70,551	69,230
固定負債		
長期借入金	15,603	21,476
退職給付引当金	1,971	2,106
役員退職慰労引当金	1,098	1,116
その他	6,536	7,609
固定負債合計	25,210	32,309
負債合計	95,762	101,540

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	15,843	15,843
利益剰余金	45,784	51,099
自己株式	△4,938	△4,938
株主資本合計	69,840	75,154
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	330	238
その他の包括利益累計額合計	330	238
少数株主持分	31	18
純資産合計	70,202	75,411
負債純資産合計	165,964	176,952

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	120,476	123,664
売上原価	83,216	85,126
売上総利益	37,260	38,537
販売費及び一般管理費	24,665	25,497
営業利益	12,595	13,040
営業外収益		
受取利息	6	4
受取配当金	67	54
その他	382	549
営業外収益合計	456	609
営業外費用		
支払利息	319	264
その他	103	128
営業外費用合計	423	393
経常利益	12,628	13,255
特別利益		
固定資産売却益	2	25
特別利益合計	2	25
特別損失		
固定資産除売却損	20	92
投資有価証券評価損	75	91
関係会社株式売却損	—	17
災害による損失	241	—
その他	0	—
特別損失合計	338	201
税金等調整前四半期純利益	12,291	13,079
法人税、住民税及び事業税	5,227	4,939
法人税等調整額	182	255
法人税等合計	5,410	5,194
少数株主損益調整前四半期純利益	6,881	7,885
少数株主利益	2	0
四半期純利益	6,878	7,884

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	6,881	7,885
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△54	△91
その他の包括利益合計	△54	△91
四半期包括利益	6,827	7,793
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,824	7,792
少数株主に係る四半期包括利益	2	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	12,291	13,079
減価償却費	7,098	7,201
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△714	△926
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△17	△30
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	△20
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	38	33
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	157	137
投資有価証券評価損益 (△は益)	75	91
固定資産除売却損益 (△は益)	18	67
受取利息及び受取配当金	△73	△59
支払利息	319	264
災害損失	241	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△10,838	△6,031
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,359	△1,196
未収入金の増減額 (△は増加)	386	221
仕入債務の増減額 (△は減少)	4,840	2,048
その他	1,991	590
小計	14,460	15,471
利息及び配当金の受取額	73	59
利息の支払額	△303	△270
保険金の受取額	500	—
災害損失の支払額	△445	—
法人税等の支払額	△4,907	△7,123
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,377	8,136
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,259	△10,933
その他	△162	△207
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,421	△11,141
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,400	3,980
長期借入れによる収入	13,700	13,010
長期借入金の返済による支出	△11,750	△9,869
リース債務の返済による支出	△1,992	△1,881
配当金の支払額	△2,358	△2,532
その他	△7	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,008	2,699
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	945	△306
現金及び現金同等物の期首残高	13,273	13,909
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,219	13,603

（4）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（5）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。